

飛鳥資料館 春期特別展「飛鳥の石造文化と石工」

2020年度の最初の展覧会は、古代飛鳥の石の文化に注目します。亀石や酒船石、亀形石槽は飛鳥を象徴する文化財の一つと言ってよいでしょう。このような古代飛鳥を語るうえで欠かせない石造物をはじめ、古墳の石室、宮殿の敷石、寺院の礎石、工房の砥石等、飛鳥の都ではさまざまな使い方で石を利用していました。須弥山石や石人像、苑池のように、石と水を組み合わせて用いる技術も花開きました。

この展覧会では、亀形石槽や猿石等著名な石造物の魅力とともに、現代に生きる石工の道具等も紹介します。庭園にある石造物の石製複製とともに楽しみください。
(飛鳥資料館 石橋 茂登)



復元された須弥山石

会 期：2020年4月24日(金)～6月14日(日) 月曜休館(祝日の場合は翌平日)

開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問い合わせ：☎0744-54-3561

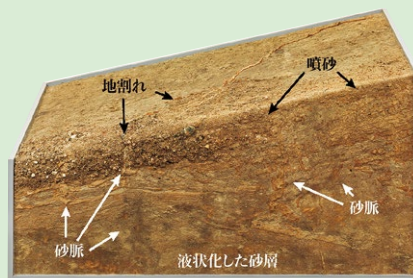
平城宮跡資料館「平城宮跡周辺でみつかった巨大地震の痕跡」

平城宮跡資料館の考古科学コーナーでは、奈良文化財研究所庁舎建て替えにともないおこなわれた平城第530次調査で遺跡から切り取った巨大地震の痕跡を展示しています。

発掘調査では、奈良の地が巨大地震によって何度も被災していたことを示す、地割れや液状化、それにともなう噴砂や砂脈の痕跡が多く発見されています。よく奈良は、藤原京や平城京があったことから災害の少ない安全な土地であると言われますが、展示している地震の痕跡は震度5弱以上の巨大地震によって引き起こされたと推定され、奈良の地もけっして安全とはいえないように思えます。このような被災履歴を理解しておくことは、防災・減災に直接的に結びつくため、私たちの将来の生活を考える上でも大変重要な意味があります。

今後も奈文研の最新の研究成果を展示していきたいと思います。

(埋蔵文化財センター 村田 泰輔／企画調整部 藤田 友香里)



切り取った地層の断面に残る巨大地震の痕跡

開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで) 月曜休館(祝日の場合は翌平日)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/> お問い合わせ：☎0742-30-6753(連携推進課)

■ お知らせ

第18回平城宮跡クリーン大会

4月4日(土) 朱雀門ひろば

9：30集合(申込不要) ※雨天の場合は中止

■ 記 録

文化財担当者研修(専門研修)

○文化財デジタルアーカイブ課程

1月20日～1月24日 18名

○史跡保存活用計画策定課程

2月3日～2月7日 16名

○文化財防災・減災課程

2月12日～2月14日 12名

○保存科学V(材質・構造調査)課程

2月18日～2月21日 10名

平城宮跡資料館 新春ミニ展示

1月4日(土)～1月26日(日) 4,456名

「平城京の子」

飛鳥資料館 冬期企画展

1月24日(金)～2月26日(水) 1,331名

「飛鳥の考古学2019」

平城宮跡資料館 冬期企画展

2月1日(土)～3月29日(日) 3,515名

「発掘された平城2019」 (2.26現在)

※新型コロナウイルス感染防止のため2月27日(木)から休館

■ 最近の本

○『木簡 古代からの便り』

岩波書店 2020年2月

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>

Eメール koho_nabunken@nich.go.jp

発行年月 2020年3月